

施策マネジメントシート ～2019年度の振り返りから2020年度の取組へ～

①計画⇒実施（Plan⇒Do）
 (5月中に記入)

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野	ひと分野	担当課		社会教育課			
	政策分野	文化・スポーツ	課長名		中里千秋・沖田純一郎			
	施策	17 芸術文化・文化財保護の充実	重点施策の該当		2019	-	2020	-
施策の目的	対象	市民、文化財		意図	郷土に誇りと愛着を持ち、豊かな心を育むことができる			

施策の目標指標

目標指標（単位）	長振策定時	指標の推移					最終目標値
	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	2019年度実績	2020年度目標値	2021年度目標値	
郷土の文化財に愛着・誇りを持っている人の割合（％）	62.1	61.2	65.1	63.6 (70.0)	71.0	72.0	
地域の伝統行事や文化事業を観覧した人の割合（％）	42.8	39.6	53.0	46.8 (59.5)	60.0	60.0	

市民アンケート調査の結果（施策に関する重要度と満足度）

平成29年度実績		平成30年度実績		2019年度実績		2020年度実績		2021年度実績	
重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)
66.2	33.0	69.2	33.4	65.7	32.6				
重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI
60.5	22.8	65.7	23.6	59.9	21.6				

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連戦略 №	成果指標（単位）	長振策定時	指標の推移					最終目標値
			28年度実績	29年度実績	30年度実績	2019年度実績	2020年度目標値	2021年度目標値	
芸術・文化活動の推進		芸術文化に親しみを感じている人の割合（％）	28.8	33.8	34.7	32.7 (34.0)	37.0	40.0	
芸術・文化活動の推進		文化月間(11月)中のイベント参加者数(人)	1,500	1,761	4,597	1,789 (1,800)	1,800	1,800	
文化財保護の充実・活用		文化財指定・登録・選択件数(件)	68	69	73	75 (75)	76	77	
文化財保護の充実・活用		郷土の文化財に愛着・誇りを持っている人の割合（％）	62.1	61.2	65.1	63.6 (70.0)	71.0	72.0	
文化財保護の充実・活用		郷土の文化の保存・保護が大切と思う人の割合（％）	88.5	88.6	89.6	90.0 (89.0)	89.5	90.0	
伝統文化・民俗芸能の保存と活用		地域の伝統行事や文化事業を観覧した人の割合（％）	42.8	39.6	53.0	46.8 (59.5)	60.0	60.0	
伝統文化・民俗芸能の保存と活用		郷土芸能公開団体数（件）	8	11	11	15 (11)	15 (11)	15 (11)	

②-1 振り返り（Check）

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応	
[社会教育課] 基本事業№.59	・文化活動の中心母体である市文化協会は、文化協会員が主体となって運営しているが、少子高齢化等も相まって会員数が減少傾向にある。 ・芸術文化に親しみを感じている人の割合が低率であり関心が薄いことが伺える。 ・年度末以降、新型コロナウイルス感染症の防止対策のため各種行事等の実施ができない状況が想定される。
[社会教育課(文化財)] 基本事業№.60・61	・指定されていない文化財の把握、保存活用を図るため、文化財保存活用地域計画の策定に着手し、調査を行った。 ・文化財所有者の高齢化・世代交代による後継者不在により、維持管理が困難な状況にある文化財に対して、保存管理に対する調査・支援を行った。 ・増え続ける収蔵資料について、整理データベース化を行ない、その保存保護を図った。 ・各地域で伝承されている民俗芸能については、保存会の人材の高齢化・後継者不足によりこれまでと同じような活動の維持が困難になりつつあり、その対応について協議を行なった。

施策マネジメントシート ～2019年度の振り返りから2020年度の取組へ～

施策の成果（貢献度の高い事業等）と現状・課題		
	成果	現状・課題
[社会教育課] 基本事業No.59	・第48回市民文化祭は、市民会館と月窓亭を会場に2日間で延べ980人の観覧・参加があった。文化協会加盟団体だけでなく、一般参加が展示部門4団体、舞台部門1団体あり、よりよい市民の文化祭が実施できた。 ・第45回熊毛地区広域文化祭は、今年度は本市がホストとなり開催した。本市からは展示部門14団体、舞台部門5団体参加した。また同日映画の上映会も開催したことで、上映会来場者にも展示作品等を楽しんでもらうことができた。 ・一流の芸術文化に触れる機会の提供を行うため、自主文化事業として5月に市民会館で「人形劇団クラルテによる人形劇」を実施し99人の観覧があった。9月には「こうなんプラスフィルハーモニーによるオータムコンサート2019」を実施し161人の観覧があった。文化庁主催による巡回公演は、11月に住吉小と下西小で、太鼓と芝居のたま子座による公演が行われた。なお、3月に種子島こりーなで劇団四季のミュージカル（市内小学6年生（複式学級校は5年生含む）は無料観覧）が計画されていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止となった。	・1市3町で持回り実施する地区広域文化祭の在り方について、引き続き検討していく。 ・自主文化公演事業については、市民のニーズを考慮しながら予算の範囲内で招聘できるものを開催している。また、文化庁主催による巡回公演は、各学校のニーズをもとに事業を組み立てている。
[社会教育課（文化財）] 基本事業No.60・61	・2件の文化財指定（県1件・市1件）を行ない、郷土の宝として次世代まで継承していく文化財の保存保護を図った。 ・文化財保存活用地域計画の策定に着手し、文化財の把握及び次世代につなげる新たな文化財保存活用の考え方の構築に取り組んだ。 ・所有者の維持管理が困難であったため、寄贈を受けた「上妻家文書」については修復復元を進め保存を図り、公開活用を行った。 ・文化財の調査を進め、埋蔵文化財については文化財保護と開発事業の調整を図るため発掘調査を実施し、保存保護を行った。 ・民俗芸能については、普及啓発や保存会への活動支援、専門家調査などを行ない文化財の価値を継承する意識の醸成に努めた。	・文化財保存活用地域計画の策定については引き続き、未指定の文化財の把握、調査を進めていき、特に保存保護が必要なもののに関しては、文化財指定を行ないながら、文化財を市民により身近に感じてもらう必要がある。 ・所有者の維持管理が困難でその継承が危ぶまれる文化財については、支援を行ない保存保護を図っていく必要がある。 ・文化財の保存・活用を担う人材の減少に対し、新たな文化財保護の考え方を整理し、保存活用していく必要がある。
今後の方向性	今後の方向性の根拠等（他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入）	
継続・現状維持	[社会教育課] 基本事業No.59	・自主文化公演事業については、市民グループ等に委託することで、より民意を反映した事業が展開されるのではないかとと思われる。研究していきたい。
拡大・充実	[社会教育課（文化財）] 基本事業No.60・61	①文化財の価値の共有と継承の充実（文化財保存活用地域計画の策定「令和3年度策定」・文化財の歴史や文化財的価値を明確化するための調査の充実「歴史文化活用係」との連携） ②文化財の魅力を活かした地域づくりの推進（地域のシンボルとしての文化財の活用など、文化財を活かした地域づくりの推進「企画課・経済観光課との連携」・文化財保存活用拠点施設である「鉄砲館」のさらなる充実・文化財を活用した学校教育・社会教育との連携の充実） ③文化財をみんなで支える仕組みづくりの推進（多様な主体「市民・行政・専門家」と連携した保存活用の仕組みを構築し、市民が郷土に対する誇りと愛着をもって暮らせるまちづくりを展開する）

②-2 政策部会による振り返り（Check）

（6月中に記入）

今後の方向性	政策部会で出された施策に対する意見等（将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など）
拡大・充実	【教育振興部会】 ○施策担当課の記載する方向性のとおり。